

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	学校法人 東海学園
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市東区筒井一丁目2番35号
工場等の名称	東海学園大学・東海学園高等学校
工場等の所在地	名古屋市天白区中平二丁目901番地
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	学校教育
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月21日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 学校法人 東海学園 法人事務局
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-936-5515		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

地球温暖化は、国際社会においても大きな問題となっていて、地球規模で考えなくてはならない課題であり、人類の生存基盤にも係る重要な環境問題の一つです。そのような中で、まず自分たちには何ができるかを考え、個人で対応できる部分と、事業活動を通じて行うことの両面から地球温暖化対策を引き続き推進していきます。

1. エネルギー使用の合理化を進め、省エネルギー活動を推進します。
2. 地球温暖化対策の重要性を認識するよう、教職員への環境教育を進めます。
3. 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

- ・各校、各部署で省エネ行動を推進するよう通達
- ・廃棄物の仕訳ルールを細分化

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,424	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六フッ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三フッ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,424	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量	0.02883	t-CO ₂ / m ²	0.0284	t-CO ₂ / m ²	1.5	%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを年間0.5%ずつ、3年間で1.5%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・クールビズを5月20日頃～10月末日頃まで実施。 ・空調の温度設定を政府推奨の温度設定とする。	クールビズ実施期間を掲示し、教職員並びに来学者に浸透する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・フィルターの定期清掃を行い、空調の効率化に努める。 ・ブラインドの活用により、日射負荷の減少及び断熱性の強化を図る。 ・グリーンカーテンの活用をはかる。	
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・トイレの照明を人感センサー照明に変更する。 ・使用していない学生ホール・講義室や、昼休み・時間外の消灯を徹底する。	
一般管理・エネルギー使用量の把握	・パソコンに依る電力デマンドの監視を実施する。 ・エネルギー使用量の月毎の経年変化（3年間）を把握する。（電気・ガス）	
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	離席時にはスリープ機能を活用する。	

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--